



氷彫刻の道内草分け、東川氷土会（成田隆会長）に久々に期待の新人3人が入会しました。久々に新調なったユニフォームはまだしつくりと板についていませんが、自前で七つ道具の電動チェーンソーなどを買いそろえ、やる気満々。「最初はそんなもんだ」。新人が削る氷作品作りの手元が気になると思えて、先輩からアドバイスの声がかかります。心なしか会の活動も例年になく活発に感じられるのは気のせいでしょうか。45年目を迎える歴史に新たな一コマが加わりました。

氷彫刻作品デビューは、今年のがしかわ氷まつり（1月16〜18日）の会場入り口を飾った氷彫刻「動物王国」（篠原康さん制作）の小動物たち。15体のうち7体を担当しました。

氷柱の塊から形を削り出し、美しく仕上げるのは難しいもの。マジックインクを使って氷柱に下書きしてから作業開始です。ベテランともなると、下書きなしで直接削り始めるのですが、その域に達するにはまだまだ経験が必要なようです。

一緒に入会した佐竹国広さん（32）と2人で、美しさ、技術の高さを競う氷彫刻コンクールに初挑戦しました。

「5本氷は難しい」と試行錯誤で挑んだ作品は「アフリカ象」。前会長の盛永幸男さんからアドバイスをもらいながら仕上げました。ゾウの背中にちよこんと乗った小鳥が効果的アクセント。2人の成績結果は、出場者16人中、15位と16位でした。えっ？ どちらが勝ったかって？ 審査員の評価はほぼ互角だったようです。



父、寿さん（63）の後継者として農業を手伝い始めたのは4年前。今では一通りの仕事を経験し、自信も生まれてきました。

3人兄弟の末っ子。「兄貴たちが農家を継がなかったので、実は内心「ラッキー」と思った」そうです。

「チャンスがあつてアイデアがあれば、経営を広げたい。でも石橋をたたく性格なのでなかなか踏み切れないんです」。

今年の水田約20畝で「ゆめびりか」「ほしのゆめ」「ななつぼし」の水稲3品種を栽培します。

ほかに国内大手食品メーカーとの契約栽培で、ビニールハウス18棟でハープ6種類（チャービル、イタリアンパセリ、ディル、タイム、セージ、マーシュ）の栽培出荷も。年間約1万箱（1箱20本入り）にもなるそうです。出荷には航空便を使い、首都圏のレストランにも直接出荷しています。今年から中国野菜のパッケージを加える計画です。

「ハープはほかの野菜より収穫時期が長いのでやりやすい」そうです。

氷彫刻コンクールの作品制作風景

完成作品「アフリカ象」



後継ぎとしてトラクター運転も今やお手のもの

初の氷作品は篠原康さん作「動物天国」の小動物づくり

早くもかわいいファン誕生(?)

高橋 満さん / 農業 / 北町2

東川町出身、32歳。道都短期大学情報学部卒。介護福祉士、ケアマネジャー。介護老人保健施設「ひだまりの里」のスタッフとして開園時から7年間勤務。その後農業後継者として実家で働き始めました。妻良子さん（33）、5歳と2歳の2人の男の子の4人家族。